

2018年12月1日(土)

BIOMIMETICS

バイオミメティクス市民セミナー・対話篇

第84回 北海道とバイオミメティクスを考える その8 動物と人との関係誌



世界最小級の哺乳類であるトウキョウトガリネズミは、1903年に初めて捕獲されてから約100年間同一地点で捕獲されたことはなく、偶然でしか捕獲できないと評された幻の種でした。近年は同一地点での捕獲が可能になり、生態が徐々に判ってきました。すると、これまでの本種に関する知見には思い込みとも言える解釈が多く、それが本種との出会いを阻んできたようです。本種の最新情報の紹介を通して、得られた断片的な現象をどのように捉えるかについて考えてみたいと思います。

一番小さな哺乳類 トガリネズミのお話

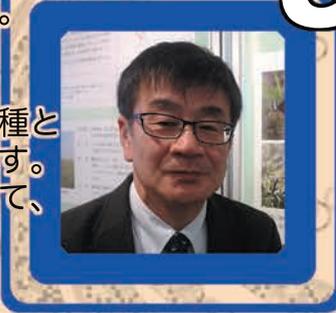
北海道大学低温科学研究所

おおだち さとし

大館 智志



トガリネズミ類はネズミと名が付きますが齧歯類ではなく真無盲腸目というモグラやハリネズミの仲間に属します。トガリネズミ類では世界最小の陸棲哺乳類とされる種が少なくとも3回独立に進化しています。また哺乳類としては珍しく毒を持つ種がいくつか知られています。一方、北方系のトガリネズミ類は基礎代謝率が非常に高く食物要求量が高いにもかかわらず極寒の地でも冬眠をせずに越冬します。この不思議が一杯の真無盲腸目哺乳類に私は魅了されその生態と進化を明らかにすべく30年以上、様々な側面から研究をつづけております。



トウキョウトガリネズミが 私たちに語ること

環境省希少野生動植物種保存推進委員
かわはら あつし

河原 淳

主催：北海道大学総合博物館
共催：高分子学会北海道支部
北海道大学 電子科学研究所
特定非営利活動法人バイオミメティクス推進協議会
協賛：千歳科学技術大学バイオミメティクス研究センター
北海道大学総合博物館
060-0810 札幌市北区北10条西8丁目
問合せ先：TEL.011-706-2658 FAX.011-706-4029
E-mail: museum-jimu@museum.hokudai.ac.jp



会場：北海道大学総合博物館/1階 「知の交流」
札幌市北区北10条西8丁目

時間：午後2時30分から午後4時